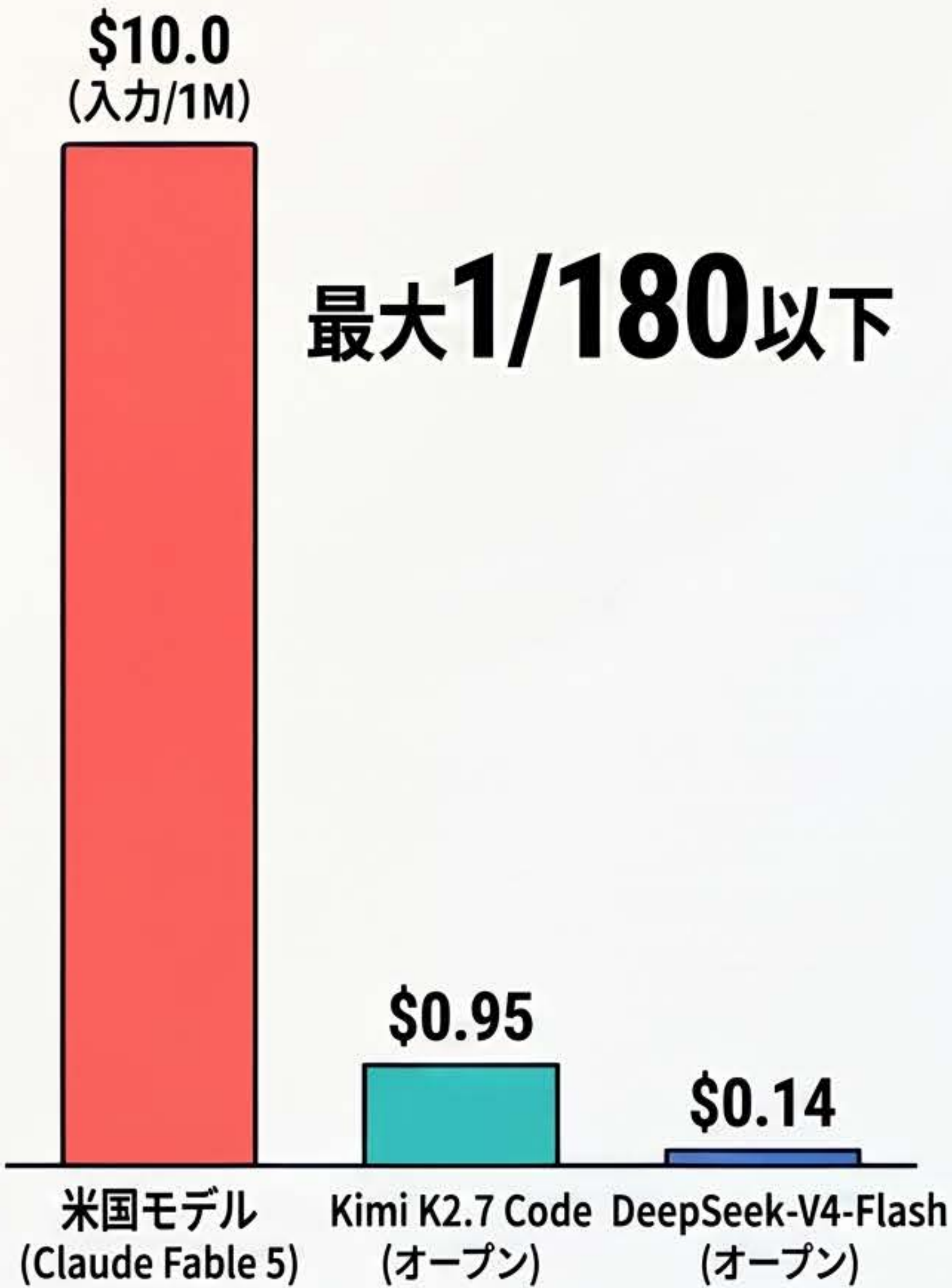


中国AIの急進と日本の「勝ち筋」：コスト・可用性・産業データの戦略的転換

米国の最先端モデル供給停止リスクと、圧倒的な低コスト・オープン性を武器にする中国AIの台頭により、AI市場は「性能至上主義」から「推論経済性と可用性」の時代へ移行。日本はこの変化を捉え、自国の強みである製造・ロボット等の「現場データ」を軸にしたバーティカルAIで勝負すべき。

劇変するAI市場：性能から「推論経済性」と「可用性」へ

中国AIの圧倒的なコスト破壊
(最大1/180以下)



米国モデルに対し、DeepSeek等の中国勢は設計最適化により20倍～180倍以上の低価格を実現。

「能力」よりも「可用性」のリスク
が顕在化



2026年のAnthropic一時停止は、海外APIに依存する事業継続リスクを企業に突きつけた。

オープンモデルを活用した ハイブリッド運用への移行

ハイブリッド運用
(難易度に応じて使い分け)



難易度に応じて高価な閉鎖APIと、安価で自社運用可能なオープンモデルを使い分ける。

日本の対抗戦略：産業データとバーティカルAIへの集中

汎用LLMではなく
「バーティカルAI」で勝負



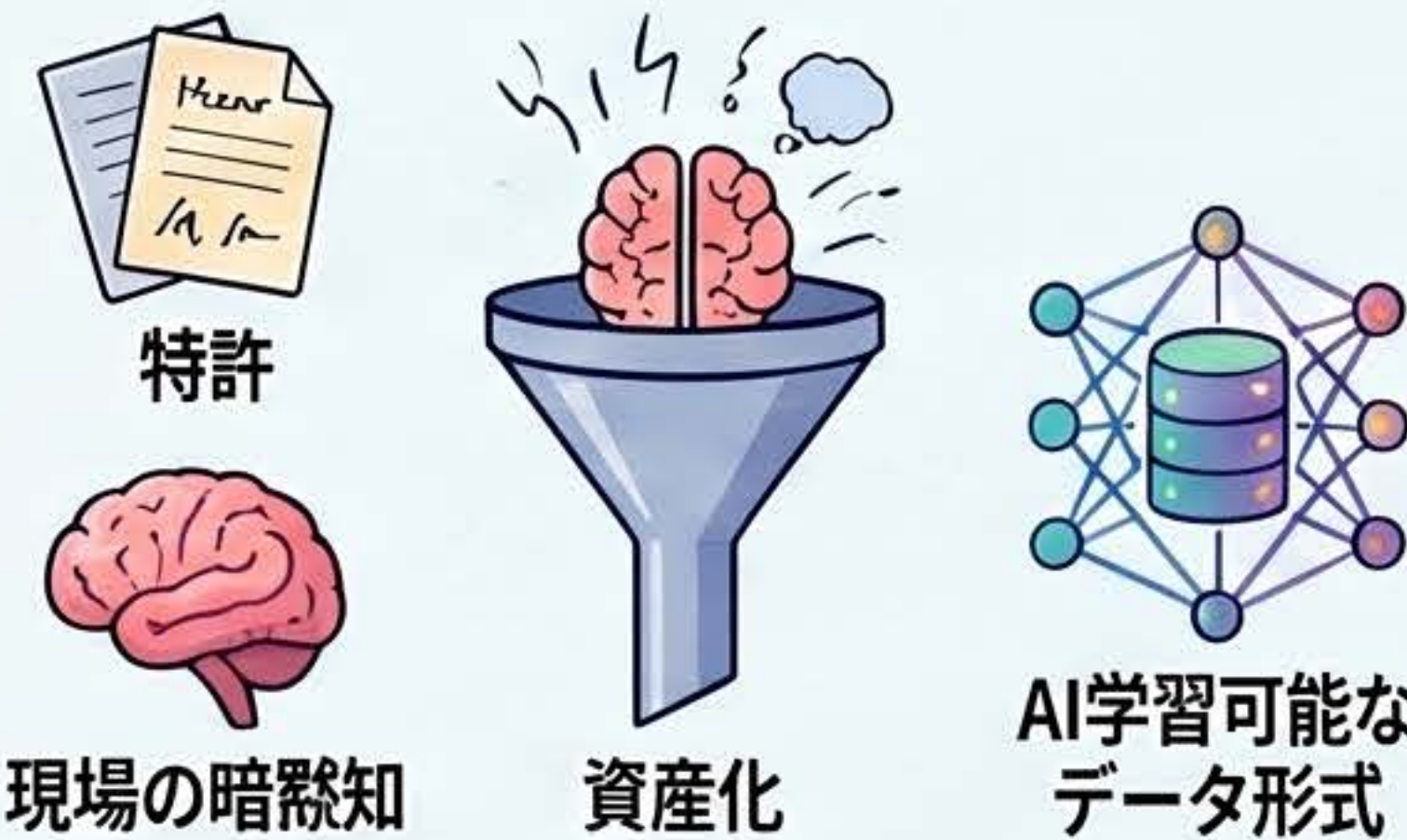
製造、ロボット、金融、医療など、現場の厚みがある領域で特定の産業に特化する。

現場知見の「AI-Ready化」が急務



日本の強みである特許や現場の暗黙知を、AIが学習可能なデータ形式に整備・資産化する。

現場知見の「AI-Ready化」が急務



日本の強みである特許や現場の暗黙知を、AIが学習可能なデータ形式に整備・資産化する。

「現場AIの標準化」で主導権を握る



安全評価やデータ連携、監査ログの国際標準を策定し、実装の一貫性で世界をリードする。